

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要

令和6年度

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野

	総合 評価 (ⅠとⅡとⅢ を1:1:2の割 合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の 進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地 域独自の取組の状 況	Ⅲ 取組全体にわたる 事業の進捗と政策 課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
ふじのくに先端医療総合特 区 (静岡県、山梨県)	4.9	4.7 <u>進捗度</u> ・がん診断装置・ 診断薬の開発 100% ・その他医療関連 製品の開発 104% ・医療分野に活用 可能な山梨県企 業の高い技術力 について、静岡県 企業がファルマバ レーセンター及び メディカル・デバイ ス・コリドー推進セ ンターに相談した 件数 104% 等	5.0 <u>規制の特例措置</u> ・国内品質業務 運営責任者の資 格要件について (薬機法) 等 <u>地域独自の取組</u> <u>財政支援措置</u> ・先端企業育成 プロジェクト 等 <u>金融支援措置</u> ・クラスター分野 支援貸付(医療 健康関連産業) 等	5.0	<p>・複数年にわたって、十分な実績が積みあがっており、「特区」としての存在意義を十分に認識できるものと考ええる。「実用化・商業化」という観点では、発展(成長)の余地が残されていると感じるため、今後の発展に期待したい。</p> <p>・本特区は、静岡がんセンターを中核とするファルマバレープロジェクトを基盤に、山梨県と連携してがんゲノム医療と医療機器産業クラスターの形成を着実に進展させている点で高く評価できる。</p> <p>・本特区は数値目標の多くを達成又は上回り、地域経済活性化と雇用創出、さらには国際競争力のある医療技術の開発・普及に寄与しており、他地域の模範となる優れた取組であると評価できる。</p> <p>・ほぼ全ての指標において数値目標を達成している点が高く評価できる。 製造業等の企業立地件数においては目標未達であるものの継続的な取組がなされている点を評価する。総じて事業の順調な進捗が伺える。</p>

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	4.7	4.8 <u>進捗度</u> ・特区発ロボットの商品化状況 275% ・生活支援ロボットの導入施設数 125% ・企業誘致施策等を活用したロボット関連企業の件数 145% 等	3.9 <u>規制の特例措置</u> ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法) 等 <u>地域独自の取組</u> ・「セレクト神奈川NEXT」等による企業誘致の促進 等	5.0	<p>・「介護ロボットの重点導入」「企業交流拠点の整備」によって、数値目標を全て超過達成し、全国的に見ても模範的な成果を挙げた年度と評価できる。一方で、産業用地不足・中小企業参入障壁・資金支援の未活用といった構造的課題が残されており、次期計画では「質の高い産業集積」と「分野横断的な社会実装」に重点を置くことが望まれる。</p> <p>・本特区は、生活支援ロボットの実用化と普及を通じて超高齢社会における人手不足や生活負担軽減に貢献する先進的取組であり、令和6年度は顕著な成果を挙げたと高く評価できる。</p> <p>・さがみロボット産業特区は導入施設数、商品化件数、実証実験件数のいずれも高い進捗を示し、生活支援ロボットと共生する社会の実現に向け確かな歩みを進めているといえる。今後も、地域独自の創意工夫を活かしつつ、更なる導入促進と技術開発支援を加速させることで、全国に先駆けたロボット共生モデル地域としての地位を一層確固たるものとする事が期待され、事業として顕著に優れた取組といえる。</p> <p>・全ての評価指標で目標を達成している点を高く評価する。次年度、第3期計画の3年目以降も継続して取組が順調に進むことを期待する。</p>

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区(AAAシティおかやま) (岡山市)	4.6	<p>進捗度</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険給付費の抑制 97% 最先端介護機器等の活用による産業振興 118% 在宅高齢者の増加とQOLの向上 100% 生涯現役社会づくりの推進 240% 	<p>規制の特例措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活性化総合特別区域介護機器貸与モデル事業等 地域独自の取組 地域別多様種連帯事業等 	4.7	<p>数値上「十分な実績」を示しており、高いモデル性が示されている。その一方で、事業の持続可能性(人材確保・事業刷新)と制度化・全国展開の道筋が今後の重点課題とも考えられる。</p> <p>・本特区は、来るべき超高齢社会に対応した新しい社会経済モデルの構築を目指し、介護予防、在宅介護支援など多角的な施策を展開しており、その取組は先進的であるとともに我が国の課題を的確にとらえた重要なものと評価できる。</p> <p>・本特区は、介護給付費の抑制、QOL指標の改善、社会参加の促進、産業振興という多面的なアウトカムを同時に達成し、国内有数の成功モデルとしての地位を確立しているといえ、顕著に優れた取組といえる。</p> <p>・全ての評価指標で目標達成かそれに近い成果を挙げている点を高く評価する。</p> <p>ケアマネインセンティブ事業が今年度新たに実施され目標を達成した。介護の質を高める取組として今後も順調な推移を期待したい。</p>

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野

	総合 評価 (ⅠとⅡとⅢ を1:1:2の割 合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組 の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地 域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事 業の進捗と政策課題 の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
みえライフイノベーション総 合特区 (三重県)	4.3	<u>進捗度</u> ・ヘルスケア 分野における データ、デジタル 技術を活用 した取組 133% ・ヘルスケア 分野の製品・ サービスの増加 86% ・ヘルスケア 産業の振興 110% ・ヘルスケア 分野企業(第2 創業含む)及び 研究機関の 立地件数(累計) 99%	<u>規制の特例措置</u> ・健康増進に 資する機能性 食品の効能 効果の表示・ 広告の実施 <u>地域独自の取組</u> <u>財政支援措置</u> ・マイレージ制度 【企業立地促 進補助制度】 等 <u>税制支援措置</u> ・域未来投資促進 法に基づく法人税、 所得税の課税特例 等 <u>金融支援措置</u> ・みえ経営向上支 援資金 等	4.3	・研究開発支援と雇用創出で高い成果を挙げ、地域産業の基盤強化に寄与していると考えられる。 一方で、製品・サービスの実用化・新市場開拓の不足や制度活用の低調が課題であり、次期は「成果の事業化・社会実装」及び「販路開拓の加速」が重点になると思われる。 ・本特区は、県内医療機関が保有する患者情報を統合した統合型医療情報データベースを基盤とし、研究開発や産学官連携の促進を進める点で意義深い取組といえる。 ・本特区は、医療情報の集約・活用を実際の研究・製品化に結びつける段階に入りつつあり、地域発のライフイノベーション拠点として全国に先駆けたモデルとなり得る。今後もデータベース基盤を整備しつつ、産官学・医療現場の連携を深化させ、持続的な研究開発と産業振興につなげることが期待され、十分優れた取組として評価できる。 ・1つを除く全ての評価指標で目標を達成している点を高く評価する。前年度目標未達であった評価指標(1)で目標が達成された点を評価する。次年度も継続できることを期待したい。評価指標(2)は目標未達であったものの前年度の実績を上回っており、次年度の達成に期待したい。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要

令和6年度

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
東九州メディカルバレー構想特区 (大分県、宮崎県)	4.1	4.6 進捗度 ・研究開発プロジェクト数 161% ・医療関連機器の市場化件数 227% ・新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数 100% 等	3.9 地域独自の取組 財政支援等 ・大分県東九州メディカルバレー構想拠点連携促進事業 等 金融支援等 ・大分発ニュービジネス発掘・育成事業 等	4.0	<p>・研究開発・市場化・人材育成で全国的に高い水準の成果を示しており、地域産業集積と活性化には大きく寄与していると考えられる。一方で、国際競争力強化(輸出製品の拡大)と制度支援の実効的活用が次期の最大課題と思われる。</p> <p>・本特区は、研究開発、市場化、人材育成の各面で高い達成度を示しており、地域経済の活性化と医療機器産業クラスターの形成に大きく貢献している。</p> <p>・これまでの取組は順調かつ成果豊かなものであり、優れた取組として評価できる。</p> <p>・1つを除くほぼ全ての指標で目標達成を継続している点が高く評価できる。医療関連技術人材育成数は今後目標を上方修正し、更なる取組に挑戦しても良いかもしれない。</p>

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野

	総合 評価 (ⅠとⅡとⅢ を1:1:2の割 合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組 の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と 地域独自の取組の 状況	Ⅲ 取組全体にわたる 事業の進捗と政策 課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
国際医療交流の拠点づくり 「りんくうタウン・泉佐野市 域」地域活性化総合特区 (大阪府、泉佐野市)	3.8	4.3 進捗度 ・国際医療交流の 推進 77% ・訪日外国人への ホスピタリティや地 域魅力の向上に よる訪日促進 153%	3.5 規制の特例措置 ・外国医師等臨床 修練制度に係る規 制緩和 地域独自の取組 財政支援措置 ・国際医療交流の 拠点づくり促進補 助金 等 金融支援措置 ・利子補給金	3.7	<p>・観光分野(消費額・満足度・ガイド活動)は大きな成果が得られていると思う。消費額・満足度は高いが、一過性に終わらせないために滞在時間延長策(体験商品の造成、宿泊拡充)が必要と考えられる。一方、医療分野の数値目標達成率は低調(60～88%)に推移しており、全体のスコアに反映されているものと考ええる。</p> <p>・本特区は、関西国際空港の目の前という立地特性を最大限活かし、国際医療交流の推進と観光振興を有機的に結びつける取組を着実に実施している点を高く評価できる。</p> <p>・本特区は国際医療交流と観光振興の両面で顕著な成果を挙げつつあり、更なる発展の基盤が整っているものと考えられ、優れた取組であると評価できる。</p> <p>・観光まちづくり分野に比べライフイノベーション分野の取組が低調である点が気になる。前年度の実績を上回った点は評価できるが、課題・ターゲット・ニーズを見定め次年度の目標達成に期待したい。</p>